

# 情報伝達訓練

令和8年5月31日(日)、大牟田市消防団において、ラインを活用した災害情報伝達訓練が実施されました。大規模地震発生時を想定し、各分団が指定された現場の状況を写真撮影し、本部へ報告し、災害対応向上の目的とするものです。

## 駿馬分団 分団長 瀬崎 夏樹

大牟田市で震度4以上の地震が発生した想定で訓練を実施した。団本部からの無線指示で現場へ行き、ラインによる情報通報システムを使い位置情報・写真等の情報を伝達する訓練であった。駿馬は1、3部まであり、各部への指示が出るので分団内でまとめる事が多く、又指示内容の変更などあり困惑する場面があるなど、細かい所を再確認出来た訓練であった。有事の際には、慌てず行動出来るよう今後には活かしていきたいと思えます。

### 課題検討

- ① 通信手段のダウンに備え、地域把握の習熟
- ② 無線交信要領の習熟
- ③ 地図、動態管理の要領向上が上げられました。



## みなと分団 分団長 山下 和也

みなと分団には「船津町の線路沿いの橋の状況確認」という指令が出され、団員5名で現場へ出動しました。現場では、交通整理、無線対応、写真撮影、車両運転など役割を分担し、円滑に任務を遂行することができました。訓練を通じて、災害現場の状況を正確に伝えるためには、出動時にできるだけ詳細な情報を共有してもらうことの重要性を実感しました。通報内容や想定される被害状況が分かれば、撮影すべき箇所や写真の撮り方もより適切なものになります。また、撮影した内容が本部の求める情報として十分か判断が難しい場面もあったため、ラインによる双方のやり取りが可能であれば、追加撮影や撮り直しなど、より正確な情報収集につながると感じました。さらに、災害時には無線が混雑することも想定されるため、本部が必要とする情報を簡潔かつ正確に伝えることの大切さも学びました。訓練中、一時的に携帯無線での受信が困難になる場面もありましたが、車両無線を活用して本部からの連絡を受信し、対応を継続することができました。状況に応じて代替手段を活用で

## 玉川分団 分団長 平川 裕人

情報伝達訓練に参加しました。地元に住んでいない団員の中には今回の情報訓練で要請を受けた場所、名称を知らない者もいました。玉川校区は、山林に囲まれているため地震が発生した時、土砂崩れが起こる可能性が高い地域です。このことから、各格納庫周辺の主要道路、目印となる建物は無線で聞いた時にすぐに風景がイメージできるように訓練しなければならぬと感じました。今回の訓練に参加できなかった団員も、訓練の内容や情報を共有していきたいと思えます。



きたことは、実践的な成果の一つであったと感じています。今後も訓練を重ね、有事の際に迅速かつ正確な情報収集・伝達ができるよう、分団員同、技術の向上に努めてまいります。

# 学生機能別団員の紹介

## 患者搬送訓練



## 屋外消火訓練



令和8年4月から、大牟田市消防団では「学生機能別団員」制度を導入しました。学生機能別団員は、従来の広報・情報発信活動に加え、平常時の訓練への参加や災害時の後方支援活動など、地域防災を支える重要な役割を担います。また、その活動内容の充実に合わせて消防団員定数内の団員として明確に位置付けるとともに、責任に応じた報酬を支給します。この制度により、消防団の充実強化と地域の災害対応力の向上を図るとともに、若い世代の防災意識の醸成、さらには卒業後の地元定住や消防団への入団促進につなげていきます。学生の力を地域防災に生かし、安全・安心なまちづくりを目指します。

# 令和8年度大牟田市消防団入団式



第23号 2026年7月発行  
発行：大牟田市消防団 予防委員会



## 大牟田市長 (関好孝) 祝辞

このたび、新しく消防団員として入団式を迎えられました皆様、心よりお慶びを申し上げます。消防団は、地域住民の安心・安全な生活を確保する最も身近な防災機関として、市民の皆様から多くの信頼と期待を寄せられております。そうした信頼と期待に応えるべく自らの手で、体で安心・安全の確保に力を尽くそうとする皆様の決意、心からの敬意と感謝を申し上げます。

## 銀水分団2部 阿瀬田 雷智

私が消防団に入団したきっかけは、地域に貢献したいという思いからです。これまで地域の安全や安心は多くの方々のおかげによって守られていることを感じており、私もその一員として役に立ちたいと考え、入団を決意しました。二十代の若い力を生かしながら、消防や防災に関する知識・技術を積極的に学び、地域住民の皆さまのために責任感を持って活動に取り組んでいきたいと思えます。入団式では、消防団員としての責任の重さを改めて実感するとともに、地域の安全を守る役割の重要性を強く感じました。これからは自覚と誇りを持ち、一つひとつの活動に真剣に取り組む、信頼される団員になれるよう努力していきたいです。

## 中友分団 中野 さくら

新入団式に参加し、地域を守る消防団の一員になったという自覚と責任の重さを改めて強く実感いたしました。先輩方の堂々とした姿や同期の真剣な表情に触れ、私も一刻も早く先輩方のように迅速に行動し、地域社会に貢献したいという決意を新たにしました。まだ右も左も分からない状態ですが、まずは日々の訓練や活動に一生懸命取り組み、地域の皆さまに信頼される団員を目指します。「安心して暮らせる街を作りたい」という高い志を持つ仲間と共に、一歩

## 中友分団 片山 翔弥斗

この度、消防団の入団式に参加し、消防団員としての責任の重さを改めて実感しました。式では、多くの方が地域の安全と安心を守るために活動されていることを知り、自分もその一員として地域に貢献したいという気持ちが強くなりました。また、先輩団員の方々の話を聞き、消防活動だけでなく防災や地域とのつながりも大切な役割であることを学びました。今後は消防団員としての自覚を持ち、訓練や活動に積極的に参加しながら、地域住民の皆様のためにできるよう努力していきたいと思えます。

## 天領分団 田中 優希乃

生まれ育った地元への恩返しをしたいという気持ちと、幼い頃から見てきた消防団員の父の姿に憧れて入団しました。日々の訓練や備品検査など、いざという時の備えが、地域を守ることに繋がっているのだと、活動を通して改めて実感しています。まだ知識も経験も少なく未熟ですが、まずは基礎となる技術を先輩方からしっかりと吸収したいです。一日でも早く地域の皆様の安心と安全を守る団員になれるよう、大学の学業と両立しながら今後の活動に精一杯、取り組んでいきたいと思えます。



新年度団長挨拶  
西山孝和

令和8年度は消防団員544名からのスタートとなりました。新入団員の皆様におかれましては、これから大牟田市の安心安全のために、一刻も早く所属の分団になじんで頂き、精進され、市民の安心安全を守っていただきたいと思っております。また、団員の皆様におかれましては、これまでと同様に地域の安全を守るため、日々の活動に情熱を注いで頂くことを願います。

大牟田市ではこれまで、署団一致の精神で市民の皆様への期待に応えるため、様々な取り組みを実施してきたところです。しかしながら災害形態も多様化し、想定外の災害が全国各地で発生しております。これらの災害を教訓とし、消防団としても日々進化する必要があります。災害への予防対策としては、まずは消防団として地域に密着した活動の経験を活かして、消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に尽力していきたいと考えます。

# 第26回 大牟田市消防団ポンプ操法大会

令和8年6月7日(日)  
「大牟田市消防団ポンプ操法大会」をイオンモール大牟田北側駐車場で実施しました。

【目的】  
消防ポンプ操法を実施することにより、訓練を通して、ポンプ操法の習熟、技量の向上、士気の高揚を図ると共に分団相互間の連携、親睦を深め各種災害の防ぎよ、対応に万全を期することを、もって消防団の責任を全うし、市民の負担に応えることを目的とする。

自動車部の部		小型ポンプの部	
優勝	平塚分団	三池分団	三池分団
準優勝	天城分団	大牟田中央分団	大牟田中央分団
3位	羽山分団	藤本分団	藤本分団
優秀選手賞			
自動車部の部	小型ポンプの部	自動車部の部	小型ポンプの部
指揮者	天城分団 山口 登二	藤本分団 中澤 健二	藤本分団 中澤 健二
1番員	平塚分団 平野 健太郎	三池分団 西山 将平	三池分団 西山 将平
2番員	天城分団 吉村 明実	三池分団 島口 学	三池分団 島口 学
3番員	天城分団 水町 浩和	三池分団 田上 和博	三池分団 田上 和博
4番員	天城分団 松永 進二郎	三池分団 松永 進二郎	三池分団 松永 進二郎

## 署団山林火災防ぎよ訓練

令和8年3月1日(日)  
「山林火災防ぎよ訓練」を大牟田市昭和田 延命公園中央駐車場一帯で実施しました。

【目的】  
春の火災予防運動の一環として、山林火災を想定した防ぎよ訓練を実施することにより市民の防火意識の高揚及び署・団の防ぎよ技術の向上を図ることを目的とする。

【想定】  
9時30分頃、延命公園お花見広場の焚火から飛び火し、東側の山林で2ヶ所から煙が出ています。



## 銀水分団1部 部長 鳥越健太

大会を終えて先ずはサポートの皆様そして大会に携わって頂いた皆様本当にありがとうございました。今回久しぶりの市大会に出場させて頂きました。大会で可憐な姿を見せたが、私自身大会で可憐な姿を見せた経験があり失敗は出来ないと思いましたが、プレッシャーとの戦いでした。ですが周りの方々の優しく時に厳しい指導やサポートのおかげで乗り切り結果3位入賞でき本当に皆様には感謝しております。今後この経験を活かし消防活動に精進して行きたいと思っております。

## 上内分団 1番員 白川和也

今回の消防ポンプ操作大会に出場し、日頃の訓練の成果を発揮することができました。本番では緊張もありましたが、仲間と声を掛け合いながら最後まで全力で操作に取り組みました。大会を通じて、消防活動に必要な技術や連携の大切さを改めて実感し、大変貴重な経験となりました。今後も地域防災のため、訓練に励んでいきたいと思います。



## 大牟田中央分団 分団長 三井康嗣

このたび、令和8年4月より大牟田中央分団の分団長を拝命いたしました。歴史ある分団の責任を重く受け止め、地域の皆さまの安心・安全を守るため、団員一丸となって活動に努めてまいります。消防活動は地域の支えがなくては成り立つものです。今後も防火・防災意識の向上に取り組み、信頼される分団を目指してまいりますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 中央分団第1部 団員 平木駿音

初めての初出式に出席させて頂いた感想は、自分が思っていた以上に大牟田市には多くの消防団の方がおられてびっくりしたのと同時に、火災の際にこれだけの方が協力して消火活動を行うと思うとすごいと思いました。また、色々な企業にも消防隊がいるのも初めて知りました。これからも団の方々と協力して大牟田市を守っていききたいと思います。

## 倉水分団 班長 新原綾子

消防団員となり3年目です。2年前のポンプ操法大会には補助員として参加しました。ポンプやホースの扱い、規律について初めて目の当たりにし、今回選手として出場させて頂いたことができました。女性ならではの不安や心配があるかもしれませんが分団長はじめ指導員、共に出場する選手たち、大会経験のある先輩方、サポートの方々の支えがあり、大会当日は悪天候ではありませんでしたがトップバッターで大会に臨むことができました。よい経験となり、今後も消防団員として誇りを持ち活動していきまます！



## 大正分団分団長 蓮尾健太郎

山林でのホース延長には、指揮者の指揮命令等が伝わらず団員同士の連携が上手くいかず、可搬ポンプへ中継し送水しました。機関員は複数のポンプ車と可搬ポンプによる車両間の情報伝達を行うこと、機関員の技術向上等の課題が見つかりました。今後の訓練の課題とします。

## 手鎌分団2部 部長 久保道弘

山林防衛訓練に参加し、山林火災時における情報収集・伝達と消火活動の重要性を学びました。ドローンを活用した上空からの延焼状況の確認により、現場全体の状況を迅速に把握できることを実感しました。また、無線による情報伝達では、正確な報告と連携の大切さを改めて認識しました。さらに、実際にホースによる放水活動も行い、隊員同士が連携して活動することの重要性を学ぶことができました。今回の訓練で得た経験を今後の消防活動に活かしていきたいと思っております。

## 備品検査



## 高取分団分団長 木村照芳

年に一度の備品検査がありました。大牟田市からのお預かりしている車両・格納庫・備品資料材です。毎月手入れ・清掃し資機材などを大事に使用し取り扱っています。また、経験の浅い団員さんへ備品の名称・取り扱い方などを覚えてもらいたい機会と思っております。

## 羽山台分団分団長 谷川秀和

備品検査の準備時に、分団名が消えかかっていたり整理整頓が不十分と感じる箇所があり、普段からのチェックが大切と反省しました。分団では備品長と機関長の主導により資機材や車両の管理をしていきますが、近年は

安全性向上や災害時の対応力強化を目的とした装備品や資機材の充実などにより配備していただく物品が増えています。その役割は大変重要と改めて感じるところです。これからも消防団活動の重要な取組として、備品管理に努めてまいります。

## 三池分団分団長 高口勇一

三池分団は5月9日に備品検査が行われました。土曜日ということもあり、参加できる団員が少なかつたため、当日の備品の配置に手間取りました。また、機関員が不在でポンプ車に習熟していない団員が対応したため、質問に答えられない場面もありました。服装でも指摘される場所があり、課題の残る結果となりました。課題の残る結果となっており、課題の改善としました。課題の改善として、いざという時に団員の誰もが車両、機関を安全に確実に運用できるようにすること、また服装等を団員同士で声をかけあい確認を行います。

